

## 2006年密雲所見元代石刻

森田 憲司

2006年3月、森田は本研究費の海外調査の一部として、北京市密雲区の密雲区図書館敷地内に集められた石刻群の調査をおこなった。その際の知見について、かつて作成した「北京地区における元朝石刻の現況と文献」(科学研究費基盤研究B「碑刻等史料の総合的分析によるモンゴル帝国・元朝の政治・経済システムの基礎的研究」[研究代表者 松田孝一]報告 2002) 所載の「北京地区現存元朝石刻目録稿」の体裁に準じて紹介したい。いずれも、そこには未掲載のものである。連番の後のローマ字は、この目録の将来の訂補に備えて、連番の間に割り込めるように付したものであるが、北京所在の他の石刻と比較する際を目安となると考えて、残しておいた。活動報告を見ていただいてもわかるように、所見の石刻について、本科研の研究会で報告と「修建霞峯觀碑」、とくにその碑陰にある題名の検討をおこなったが、この題名は、当時の大都および大都周辺地区に関する興味深い史料であると考えられる。調査時点ではこの碑林は誰でも自由にアプローチできる環境にあったので、石刻研究者で北京に赴かれる方は、機会があれば一見をお勧めしたい。なお、密雲には区の博物館もあるが、元の石刻は見出せなかった。

### 050a 大元檀州□谷修建霞峯觀碑銘并序 (篆額：修建霞峯觀碑)

延祐5年(1318)7月?

密雲碑林に現在(2006年3月調査)。

※碑陰に至元25年の記事と年代不詳の題名あり。

### 079b 重修昭惠靈顯真君廟碑記

至正2年(1342)

密雲碑林に現在(2006年3月調査)。

プレートには、原址不詳とあり。

### 100a 香巖寺功德記(題)

至正丁酉(17年/1357)

大元古白□□□□□□建香巖記

密雲碑林に現在(2006年3月調査)。

### 130 故武德將軍帶金牌淮蒙萬戶千戶所達魯花赤蛮子公瑩

年次不明

密雲碑林現在(2006年3月調査)。

プレートには、出于県城西門外橋下とあり。

(もりた けんじ 奈良大学)